高尿酸血症に対する治療の現状

桑原 政成^{1,2)} 丹羽公一郎¹⁾ 西 裕太郎¹⁾
 西原 崇創¹⁾ 安齋 均¹⁾ 新沼 廣幸¹⁾
 河北 俊子³⁾ 太田原 顕⁴⁾ 水田栄之助⁴⁾
 浜田 紀宏⁵⁾ 荻野 和秀⁶⁾ 山本 一博⁷⁾
 久留 一郎²⁾

目 的

高尿酸血症患者に対してどのくらいの割合で治療が行われており、治療群において目標の血清尿酸値 6mg/dl の達成率がどのくらいかの検討はほとんどなされていない。今回、当院の大規模データベースを利用し、健康診断受診者における治療が必要な高尿酸血症の頻度と、高尿酸血症治療群における血清尿酸値について検討を行った。

方 法

聖路加国際病院予防医療センターに2004年1月から2010年6月に受診した90143人（男性49.1%，46.3±12.0歳）のうち、血液検査を実施されている90138人を対象とした。治療が必要な高尿酸血症を血清尿酸値 8.0mg/dl 以上とし、高尿酸血症・痛風の治療群を合算して頻度を検討した。

結 果

治療が必要な高尿酸血症患者は全体で5087

人（5.643%，男性4961人（97.5%））であり、頻度は男性11.2%，女性0.27%と、男性で有意（ $p<0.001$ ）に高かった。同患者のうち、高尿酸血症治療群は1884人（37.0%，男性1844人（97.9%））で、男性で37.2%，女性で31.7%と同等であった。全体に占める高尿酸血症の治療を受けている割合は、男性で4.17%，女性で0.087%であった。治療群のうち、血清尿酸値が目標の6.0mg/dl 以下であるのは535人（28.4%，男性520人（97.2%）），男性で28.2%，女性で37.5%であり、8.0mg/dl 以上のコントロール不良群は、全体で258人（13.7%，男性256人（99.2%）），男性で13.8%，女性で5%であった。

考 察

治療の必要な高尿酸血症の頻度は、ほぼ男性が占めていた。ガイドライン推奨の目標治療域に到達しているのは、3割未満であることが示された。

1) 聖路加国際病院心血管センター循環器内科

Masanari Kuwabara, Koichiro Niwa, Yutaro Nishi, Shuzo Nishihara, Hitoshi Anzai, Hiroyuki Ninuma

2) 鳥取大学大学院医学系研究科機能再生医科学再生医学学部門

Masanari Kuwabara, Ichiro Hisatome

3) 聖路加国際病院予防医療センター

Toshiko Kawakita

4) 山陰労災病院循環器内科

Akira Otahara, Einosuke Mizuta

5) 鳥取大学医学部地域医療学講座

Toshihiro Hamada

6) 鳥取大学医学部卒後臨床研修センター

Kazuhide Ogino

7) 鳥取大学医学部病態情報内科

Kazuhiro Yamamoto